第４章　将来像と二酸化炭素排出量の削減目標

１．将来像

地球規模の温暖化対策への動向を見据えつつ、箕輪町では目指す将来像を次の通り掲げ、地球温暖化防止に取組むものとします。

【地球温暖化対策における将来像】

『未来に誇れるゼロカーボンの町　みのわ』

この将来像には、私たちが受け継ぎ、大切にしてきた豊かな自然と産業が調和した箕輪町を次代につなげ、未来の子どもたちがそのまた次の世代にも誇れる町にしたいという願いが込められています。

２．温室効果ガスの削減目標

長野県では、県内 77 の全ての市町村が賛同する「気候非常事態宣言－2050 ゼロカーボンへの決意－」を 2019(令和元)年 12 月に表明し、2020(令和 2)年に策定した「長野県ゼロカーボン戦略」で日本の脱炭素化をリードする野心的な削減目標として”2030(令和 12)年までに 2010(平成 22)年度比で 6 割減“を目指しています。

また、国連機関「気候変動に関する政府間パネル（IPCC)」の第 6 次報告書によると、世界の平均気温上昇を 1.5℃以下に抑えるためには、削減量にくわえてカーボンバジェット[注 1]（炭素予算）を意識する必要もあります。

本計画における二酸化炭素を含む温室効果ガスの実質排出量を、長野県のゼロカーボン戦略や国際的な潮流を踏まえて次の削減目標を設定します。なお基準年は 2013(平成 25)年度です。

気候変動については、様々な不確実性があることから、最新の研究結果など今後も国内外の動向を注視していくものとします。

【温室効果ガス削減目標】

2030 年度の温室効果ガス実質排出量

６０％削減　(2013 年度比)

注 1: 産業革命前に比べた世界平均気温をある目標気温以下に抑えるための人為行為による残りの温室効果ガス累積排出量